

海外におけるクローン人間計画への対応について

1．計画の動き

- 本年 8 月 5 日、米国のザボス元教授とイタリアの産婦人科医アンティノリ氏らが本年 1 月に発表したクローン人間計画について、11月にも着手予定であること、具体的な計画を米国科学アカデミーで発表することが報道。
- ザボス元教授とアンティノリ医師等が、クローン人間計画について発表した米国科学アカデミーの研究会では、
 - ・ クローン人間計画の具体的な日程や、クローンを巡る技術的問題に対する解決策を示していない。
 - ・ この計画に対し、他の研究者は相当に批判。
 - ・ これに対し、有効な反論はせずに計画の推進を主張。という状況。
- 研究会の発表では、日本人の参加について触れられなかったが、新聞では 4 組から 5 組が参加との報道もある。

2．各国の反応

- 米国ブッシュ大統領は、報道官を通じ「クローン人間を誕生させるいかなる試みにも反対する」との立場を強調。
- フランス及びドイツはヒトのクローンを禁止するための国際条約の交渉を開始するよう国連に要請。
- 英国では、ヒト受精・胚機構（ヒト胚に関する規制機関）の会長名で本計画の非難と国民に対し参加しない旨のステートメントを発出。

3．我が国の対応

本年 1 月の計画発表以来、科学技術担当大臣及び文部科学大臣による声明を発出、大学、研究機関等への我が国の考え方や法律の趣旨の徹底、また、在外公館を通じ、未だ法制化が実現されていない G 8 各国に、防止に向けた実効ある取り組みへの検討の加速を期待する旨伝達する等の対応をしてきた。

今後ともこのクローン人間計画に対し、関係各省とも協力し、情報収集を行うとともに、以下のような対応を行っていくことが重要。

- 国内の研究者・医師及び不妊に悩む夫婦がこのような計画に同調することのないよう、クローン人間作りの禁止という我が国の考え方や法律の趣旨の周知徹底。
- 我が国の考え方を国際的に発信していくとともに、クローン人間作りを禁止するための国際協力の強化に向けた取組。